

スキャナ
SCANNER

文部科学相の諮問機関「中央教育審議会」(中教審、島居泰彦会長)は十日、基本問題部会を開き、教育基本法見直しに関する審議を再開した。今後は、週一回のペースで審議を加速し、愛国心など新たに盛り込む基本理念の内容や具体的な表現、「宗教教育」についてより積極的に取り組むことの是非について、大詰めの議論を行い、三月末にも答申を出す予定だ。

(政治部 三浦 真、社会部 丸山 謙一)

■基本理念

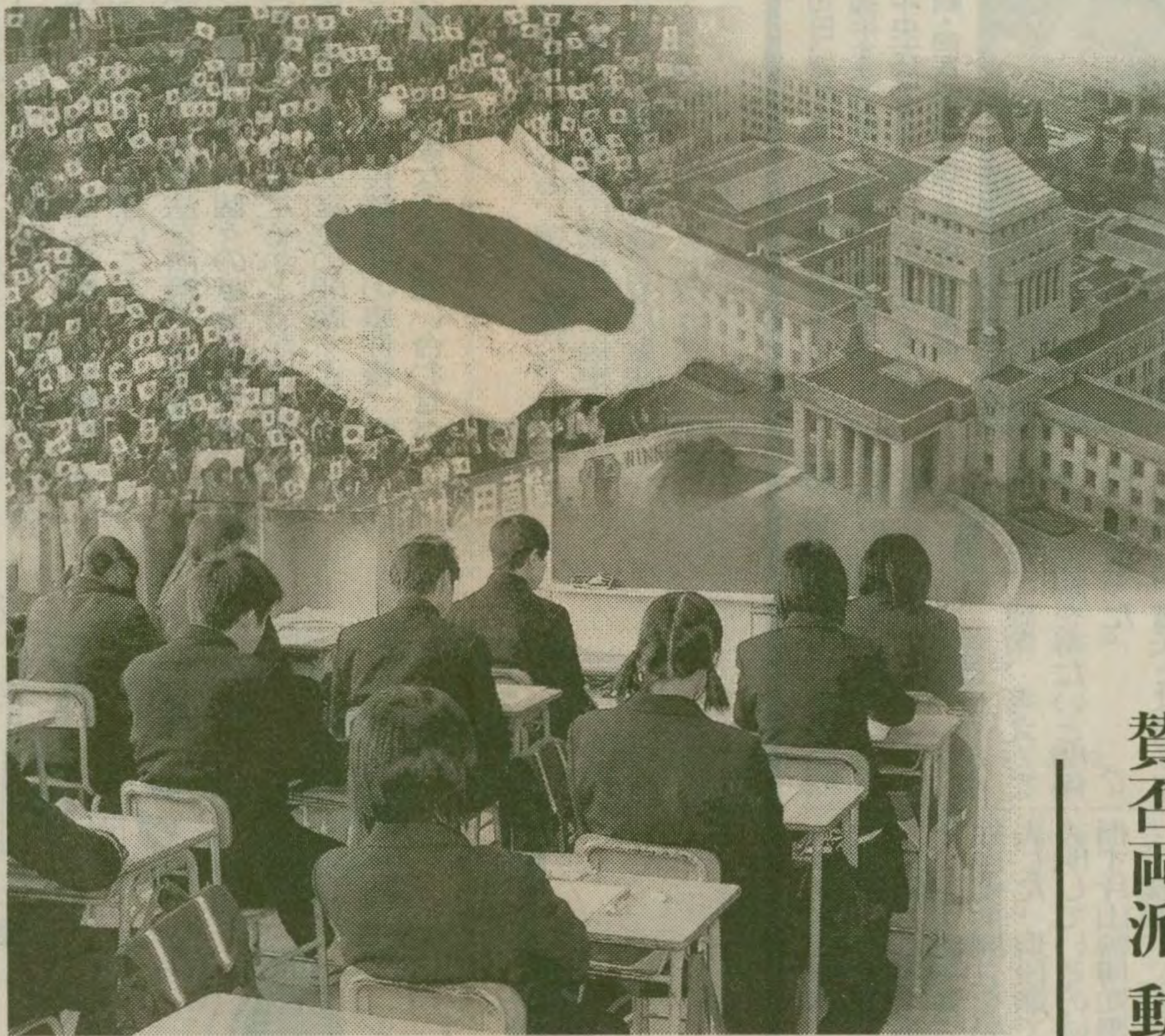
教育基本法見直しの今後の大きな焦点は、新たな基本理念として、①愛国心②公共の精神——などをどう盛り込むかだ。現在の教育基本法に対しては、「伝統や文化を尊重する精神に欠け、個人の尊重に重点を置く余り、子供に公共心や道徳心が育たなかった」との批判が強いとされた。

十日の中教審基本問題部会で中嶋嶺雄委員(東京外国語大名教授)は、「口先だけで『国を愛する心』と変えていいのか。堂々と(愛国心を)位置づけるべきだ」と改めて注文した。

昨年十月の中教審の中間報告案では、「自国の価値を一層高めようとする心がけこそが真の愛国心」と表現されていたが、中教審内での議論の結果、愛国心という部分は「郷土や国を愛する心」と変わった。改

教育基本法見直し 論議再開

●中教審



愛国心

公共精神

家庭教育

表現巡り曲折も

個人とどう両立

役割分担焦点に

正案では前文に盛り込まれる可能性もあるため、この表現をめぐってはまた曲折

主体的に参画する『公共』の精神」との理念は、相次

廃を踏まえ、子供の倫理観の委員だった牛尾治朗

宗教教育のあり方をどう見直すかも、論議になって

基本法改正について、賛否両派は先月、相次いで大規模集会を開き、それぞれ主張をアピールするなど、動きを活発化させている。

「公共」精神の重要性を強調。市での教研集会で、神原長

日本PTA全国協議会が、(赤田英博会長)が昨年五

見直しすかも、論議になって

改正派の教育関係者や経済人らで構成する「『日本

反対派の代表的存在である日教組は二十五日の奈良

要があるかどうかよく議論

見直しすかも、論議になって

賛否両派動き活発化

関心は必ずしも高くない。

本法に掲げられた普遍的な理念は教育の本義にのっと

見直しすかも、論議になって

与党内で、自民、保守新の両派は、中教審の答申を受け、政府の基本法改正案を今国会に提出したい考え

だが公明党は「慎重論議」を唱え、抵抗している。

四月の統一地方選を控え、公明党議員も支持者の

同党の神崎代表は三日の衆院本会議の代表質問で、「教育基本法は憲法的な

性格を有しており、十分時間をかけて議論を尽くすべきだ」と改めて強調した。

これに対し、自民党は、公明党が連立政権に参加し

背景には、同党の支持母体である創価学会内に、道徳、「公共」の精神、宗教教育の見直しなどに反対意

見が根強く、公教育の場で政府が個人の思想・信条の問題に踏み込むことに抵抗感が高いことがある。池田大作名誉会長は既に、「基

このため、中教審の答申する立場を取っている。

公明 慎重崩さず

国会が提出
国民が同意

公明党が連立政権に参加した小沢内閣以降、「教育改革国民会議」など、十二分に国民的議論が行われた(閣僚経験者)として、今国会での改正案提出は譲らない構えだ。

審議会答申以来、児童虐待に象徴される家庭の教育力低下を背景に、何度もその必要性が指摘されているが、「いまだに実現していない」(中教審委員)。今後の審議で、学校や家庭の責任、役割分担をどこまで明確に示せるかが焦点になる。

■家庭や地域

中間報告は、新たに法律に規定すべき事項として、「学校、家庭、地域社会の連携」を提言した。この点では、総論としては改正賛成派、反対派双方がその重要性を認めている。

■宗教教育

宗教教育のあり方をどう見直すかも、論議になって